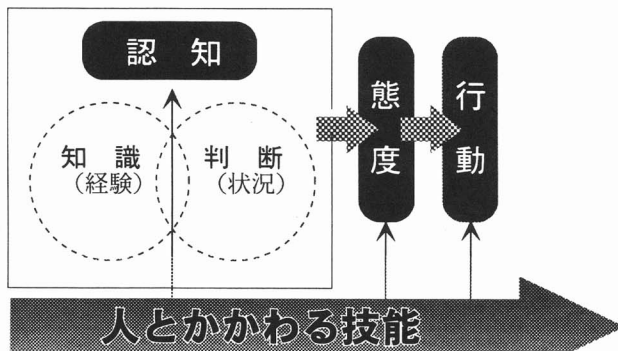


よいか（適応的で有効な行動）」というコンピテンス（効果的に他者と相互作用する能力）も含めてとらえる必要がある。つまり、これまでの知識や経験にもとづいて、「どのような行動が適切か」また、「それを実行した場合、どう評価されるか」や、「実行できるか」の判断といった「認知」や「態度」の形成が、図に示す「行動」を左右するということがある。

このことから、人とかかわる技能を、相手の立場や思いを考えながら（認知的側面）、自分の思いを効果的に伝える（行動的側面）ことで、良好な関係をつくることができる力ととらえた。

（資料1）「人とかかわる技能」のとらえ方



※ 態度…行動しようとする気持ち、心の準備ができあがった状態

III 研究の内容・方法

- 理論研究、研究協力校での実態調査を通し、小学校高学年における「人間関係をつくる力」の具体的内容を明らかにする。
- 指導援助プログラムの試案を作成し、研究協力校での実践を通してプログラムの有効性を検証する。
- 実践をもとに、小学校高学年における「人間関係をつくる力」を育てるための指導援助プログラムを作成する。

IV 研究の実際

1 実態調査とプログラム試案作成

(1) 「人間関係をつくる力」の実態調査

児童の「人間関係をつくる力」を中心に、その実

態を明らかにするとともに、全県対象の調査結果（平成10年度実施）との比較を通して、小学校高学年の時期に身に付ける自己肯定感、人とかかわる技能の具体的内容を明らかにするための事前調査を実施した。

調査は、評定尺度法（4件法）と記述式の組み合わせを用いて実施した。なお、この用紙（資料2）は変容をとらえる事後調査用紙としても活用した。

（資料2）事前・事後調査用紙

アンケート

出席番号 ()

ACCESS 4 3 2 1

MEMORIP ACCESS

① 私は、自分にもいいところがあると思う。
(肯定的な自己理解)

② 1で答えた、自分の「いいと思うところ」を、3つ書いてください。思い出せないときは1つでも2つでもいいです。(よきの自己受容)

◇
◇
◇

③ 私は、自分のいやなところや悪いところが気になる。
(否定的な自己理解)

④ 3で答えた、自分の「いやなところや悪いところ」を書いてください。
(欠点の自己受容)

◇
◇
◇

⑤ 私は、みんなのいいところを知っていると思う。
(肯定的な他者理解…自己→他者)

⑥ みんなは、私のいいところを知っていると思う。
(肯定的な他者理解…他者→自己)

⑦ 私は、みんなのいいところを認めていると思う。
(肯定的な他者受容)

⑧ 私は、みんなのことを知りたいと思う。
(かかわりたい「思い」…人間関係の広まり)

⑨ 私は、みんなと一緒に活動したいと思う。
(かかわりたい「思い」…人間関係の広まり)

⑩ 私は、友達のことをもっと大切にしたいと思う。
(かかわりたい「思い」…人間関係の深まり)

⑪ 私は、話をする友達の気持ちを考えながら聞くことができる。
(技能…「聞く」)

⑫ 私は、友達の気持ちを考えながら、自分の気持ちや考えを話すことができる。(技能…「話す」)

⑬ 私は、友達の気持ちを考えながら、一緒に活動することができる。
(技能…「接する」)

⑭ 私は、学級でのびのびと生活している。
(自己表現)

⑮ 私は、友達と一緒にいるのが楽しいと感じている。
(心理的距離)

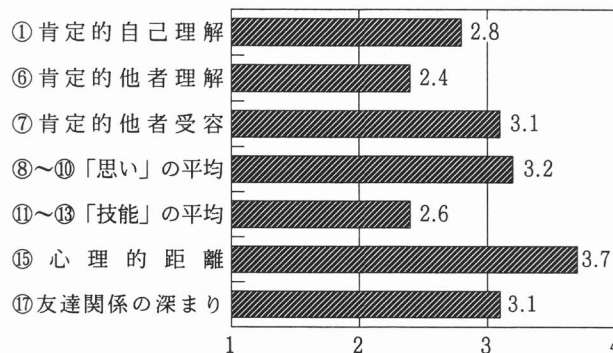
⑯ 私は、自分のことをもっとよくしたいと思う。
(向上心)

⑰ 私は、何でも話せる友達が学級の中にいると思う。
(友達関係の深まり)

⑱ あなたが、自分の学級の雰囲気がいいと思うことや好きなところを3つ書いてください。思い出せないときは1つでも2つでもいいです。(豊かな人間関係…開放的、支持的、協力・向上的)

◇
◇
◇

（資料3）事前調査結果



事前調査の結果から、本学級では、「肯定的他者受容」と「思い」、「心理的距離」が高い数値を示し、その反面、「肯定的他者理解」（みんなは、私のいいところを知っている）や「技能」の数値が低いとい